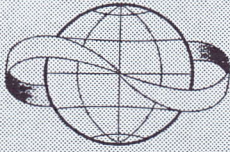


ヴェーナス通信

Venous (静脈) Venus (護美の女神)



第26号

発行 東多摩再資源化事業協同組合
理事長 紺野武郎 編集長 吉浦高志
東京都東村山市久米川町1-16-18
Tel&Fax 042-395-9788

組合十周年の回顧と

これからの再資源化事業

東多摩再資源化事業協同組合は、本年七月二日で満十年を迎える。『TAMARAいふ21』の記念事業に基づいて多摩六都の資源循環システムの一翼を担う目的で設立し、各市の行政回収作業や集団回収事業などの遂行に組合員の総力を結集した。

この十年間を振り返ると、政治経済社会すべてに渡って世紀末から新世紀への激変の時となった。

我が国の総理大臣は七人代わり、バブル崩壊後失業や倒産が増え、株価も二〇年ぶりの低水準まで暴落した。さらに陰湿な事件が多発し、大震災にも見舞われた。冷戦後も海外では、九・一一多発テロからアフガン・イラクへと戦火が続き反戦の嵐も起きた。

廃棄物リサイクル関係の法整備も大きく進み、リサイクル事業も行政主導の様相を呈してきた。

平成九年四月「容器包装リサイクル法」一二年六月「循環社会形成基本法」一三年四月「改正廃棄物処理法」「改正資源利用促進法」「家電リサイクル法」「グリーン購入法」「食品リサイクル法」の施行、一四年五月「建築リサイクル法」が施行された。また本年は

「廃パソコンリサイクル」の義務

化・「自動車リサイクル法」や「廃掃法の見直し」も見込まれている。環境保全ごみ減量再資源化の推進として規制強化した法制化だが、動脈産業重視・経済活性化景気回復に躍起になっている現状で作られた各種リサイクル法には、拡大生産者責任の明確な義務や罰則は薄く、廃棄物の発生抑制には結びつかず、大量生産大量消費促進に利用される場合も少なくない。

各種法律を受けて全国の自治体や企業が資源物回収に乗り出し、急激に再生資源の余剰化・国内市況の暴落を招いたが、リサイクルの新たな受け皿は厳しい余剰時に生まれることを教えてくれた。分別の徹底と安定した供給が見込まれて初めて新たな需要も生ずる。中国をはじめアジア各国への急激な再生資源の輸出拡大も、需給双方の条件が一致して拡大した。

国内産業が空洞化した一方で、世界の生産工場化したアジア諸国の資源消費増減でも一致した。この結果国内再資源市況は一変してタイト化し、古紙もスクラップも十年ぶりの価格復元となった。

さてこれから、真の循環型社会構築を目指したとき、リサイクル事業のあり方、生産者消費者の責

任、官民の役割、など特に地球資

源の八割を浪費してきた先進国の責任と義務は大きいものがある。再利用可能な資源の最大限の回収と、必要としている国への安定した輸出も継続して、グローバルなリサイクル事業を進めて行かなければならない。

また間違ったりリサイクルを推進して、新たな資源の無駄遣いやコストの浪費、環境破壊などをしているか再検討も急務である。

無理なマテリアルリサイクルよりも、場合によってはサーマルリサイクルのほうが環境に優しく衛生管理上も有利な時もある。

今後、再資源化の難易度に即したコスト負担を、すべての商品に対して義務づけることが出来れば、健全な発生抑制が可能であり、民々での完全な資源リサイクル事業の確立も可能になると思う。

それには先ず、消費者（加害者でもある）の環境を最優先した意識改革が必要であり、それに呼応した産業の自浄作用が興ることだ。官主導の法律に縛られたリサイクルは、環境悪化の規制に他ならず、民意の自主的な行動があつてこそ環境保全改善のステップになる。そのための情報収集と提供に、一層の努力をして行きたいと思う。

「抜き取り行為」を考察する

行政回収から新聞のみを抜き取り売る行為が批判を浴びている。その背景を分析していくと、製紙メーカー、古紙問屋、行政、回収業者の関連した全体的な問題点が見えてくる。

今年2月～3月にかけてテレビ等マスメディアを通じて、行政回収の新聞抜き取り行為が何度も放送された。行政側はこの行為は違法であり不当であると主張し、抜き取る側はもと我々の仕事であり、行政が自分たちの仕事を奪ったと言いつつ、互いに譲らない姿勢を示していた。

この抜き取り行為によって誰がどのような被害をこうむっているのか、報道からは分かりにくい。一番の被害者だとする行政は被害対策にいかに対応してきたか、日本再生資源事業協同組合(以下、日資連)の古紙委員会(委員長紺野武郎)では、二月五日の委員会において古紙の抜き取り問題について日資連の見解をまとめた。以下日資連古紙委員長の許可を得て掲載させて頂く。

(事例一)

船橋市では昨年夏から新聞の持ち去り行為が多発し、数週間で百トンを超えるような状態です。車両も地元ナンバーだけでなく他県ナンバーも含め数台が頻繁に来て

いた。この状況に対し、船橋市有価物回収協同組合では、パトロールの強化(朝7時より)。持ち去り行為の実情の説明と情報収集のため回覧板用紙を作成し各町会に配布し家庭に回覧する。家庭から寄せられた情報を整理して警察と相談する。警察も協力すると回答(どのような協力かは不明)。弁護士にも相談し、「有価物ステーションからの古紙の持ち去り行為は窃盗罪や業務妨害罪等にあたり、告発を考える」との見解を示し組合も告発を検討している。市民対応では先に述べた回覧板のほか「初めの試みである「市民との交流会」を行い、有価物回収についての協力や盗難の状況を説明し。連帯を図った。これらの対策の結果、現在では抜き取り行為がゼロに近い状態にまでなった。

(事例二)

浦和リサイクル事業協同組合では、通常回収時間八時半を七時から行う対応で回収量の上昇や抜き取り行為阻止に効果を上げている。行政からはトラブルが無いように

との注意があった。

(事例三)

杉並区。昨年七月以降は三〇%以上(前年同月比)の抜き取りが見られ、住民の苦情が多発、組合の資源化事業にも多大な影響が出ている。杉並リサイクル事業協同組合は区にたいして古紙の抜き取り防止対策を要請した。これを受け、区では次のようなことを実施することとした。

区は廃棄物の処理及び再利用に関する条例の一部を改正し所有権の明確化と収集業者を特定した。「所定の場所に持ち出された資源物の所有権は、杉並区に帰属する。この場合において、区長が指定する事業者以外のものは、当該資源物を収集し、又は運搬してはならない」。区長が指定する事業者とは区と資源物の収集に係わる委託契約を締結している者を指す。

監視パトロールの実施。「無断持ち去り厳禁」のシートを集積所に貼り付ける。シートには所有権の明示と無断持ち去りは窃盗罪にあり警察に通報することが表示さ

れている。抜き取り行為の資源は行政の関係する施設では一切受け入れない。回収員が「パトロール中」の腕章を着けて回収業務を行う。効果は一定期間を経て集約結果をみることにしている。

東多摩再生資源化事業協同組合(以下、当組合)の場合の抜き取り行為に対する対応を紹介する。当組合の回収地域でも抜き取り行為が目立つようになってきた。抜き取り行為は二年ほど前にも首都圏で頻発した事がある。その時点で当組合は市担当部所と協議を行い次のような対策をとった。

シールを作成して集積場所に貼付した。「この集積所に出された新聞・雑誌・段ボールは住民の皆様のご協力により出されたものです。回収は東村山市がしています。持ち去らないで下さい。東村山市環境部・東村山警察署」と表示されている。警察とも十分に話し合いを行い行政回収の趣旨を理解して頂いた上での表記である。

この段階では杉並区ほど所有権を明示せず、また市の指定業者以外の持ち去りを厳禁するほど強固な意志は受け取れない。それでも市民から抜き取り行為車両のナンバーなど市へ通報があり市は警察

に連絡をして警察が行為者を割り出し注意を促している。回収員が回収途中で抜き取り行為者を発見した場合は表示を示し注意し、車両ナンバーを控え市に伝達する。二年ほど前、関東製紙原料直納商工組合が抜き取り行為に対して、法律事務所依頼し、その犯罪性について法的見解をまとめた事がある。およそ次のような内容である。

古紙の集積所は一定の期日に行政が責任をもって収集するために住民に古紙を分別して指定した場所に出すよう定めていることから、そこに置かれた古紙は行政の事実的支配が認められる事。

古紙が結果的に有償で取引される物であることから「財物」である。

この事から、市の指定業者以外の者が市指定の集積所から古紙を持ち去る行為は他人の財物を窃取する窃盗罪を構成するとしている。

この様な法的見解を示したにもかかわらず、その後、行政、古紙問屋、回収業者が法的にも組織的にも統一した対処を怠ってきたことが現況の新聞抜き取り行為を頻発させ、居直らせることにつながっていると言える。

古紙価格市況が低迷すれば抜き

取り行為も沈静化し目立たない程度の抜き取り行為は見て見ぬ振りをする。市況が良くなればいつでも多発し、問題だと騒ぎ立てる。

喉元過ぎれば熱さを忘れるような事をいつまでも続けていては問題解決にならない。泥縄ではいつでも遅すぎるのだ。

以下、日資連古紙委員会がまとめた抜き取り行為の見解を要約する。

I 行政回収存続の必要性と題して。

地方自治体は、ごみ減量のため、再資源化の促進などリサイクル事業推進の任を負わされており資源物の収集は自治体の義務である。

行政回収は再生資源の市況に左右されず安定継続される。また公平に定期的に回収されるので住民にとつて利便性が高い。

行政回収を始めるにあたっては、昔からの地元資源回収業者、あるいは彼ら回収業者で組織された組合と市民、自治体がその地域の特性をよく理解し協力体制を整えて行っている。

この事は、行政として回収の安定性と利便性を整え、その機能を十分發揮させる上で市民への啓発を行い協力を要請している。そして市民と接触の多い地元の資源回収業者(団体)に回収を委託する。

この回収方式は行政、市民、業者の共働で成り立つ地域に根ざした三者がリサイクルパートナーとして信頼関係を築き上げようとするものである。自分の利益だけの為に金目の物だけを抜き取る行為はリサイクルに協力しようとする市民と行政、回収業者の信頼関係を壊すことになるので断じて許される事ではない。

II 抜き取り業者の言い分とその疑問・反論として

①「行政回収は税金の無駄遣い」と言う主張。抜き取り行為そのものが彼らが批判している行政回収への寄生行為である。現状では資源物の売上金で回収コストの得られる仕事ではない。

つまり回収コストが得られない資源物(古紙に限らずビンや缶)を誰が回収するのか?現状では行政が行う以外にはないではないか。市民は自分たちが排出する資源物やごみを行政が税金を使って回収することに同意しているのである。

②「行政回収がチリ紙交換員の仕事を奪った」?この十年余り古紙価格が暴落し、古紙の売買差益で回収コストを得ることが不可能になった。それ故回収業者は激減した。しかしごみとして出てくる古紙が増え続け、ごみ減量、リサ

イクルの推進の為に行政が回収を行なわざるをえなくなった。

かつて、家庭を回り古紙と引き換えにトイレットペーパーやティッシュペーパーを配っていた回収業者はコストが得られなくなり多くが廃業していった。行政回収がちり紙交換員の仕事を奪ったという非難はまったく当たらない。

それでもなんとか活路を見出そうとした回収業者は事業系古紙や集団回収の逆有償の同意を取り付け必死の努力を続けてきた。或いは組合を設立して組織的な力を發揮できるような体勢を整えてきた。

③「資源リサイクルは民間に任せろ」について。一部の資源、(今回は新聞)が突然回収コストが出るからそれだけ任せるといわれても市民は納得しないし、信頼もできない。資源物の種類や市況にかかわらず安定継続した回収ができるなら実践してみてもどうか。またその方法を提案すべきである。

「民間に任せろ」その通り。回収に税金を使わずにすむならそれに越したことはない。その税金は他の市民サービスに回すことができるのだから。

以上I、IIのことから現状では、市民が排出する資源物は行政回収が牽引しなければならず、身勝手

な抜き取り行為は今築きあげつつある市民、行政、回収業者お互いの信頼関係を壊しかねず、混乱をまねくだけである。

Ⅲ回収業界としての今後の活動と行政の対応

① 市民で可能な資源回収システムの確立と環境改善。業界としても行政に頼らず民間回収で成り立つことが良いと考えている。製紙業界への要望として製品にリサイクルコストを内部化し、回収への助成を行い、価格の安定に努力してもらいたい。

製品にリサイクルコストを内部化すれば製品価格が値上がりするが、その製品を使用する側にとっては今まで余分に使用していた分について見直しを検討することとなり発生抑制にも繋がる。

② 古紙直納業界に要望。抜き取り行為が違法であれば、その古紙を買い取る問屋も盗品古物売買の罪になる。例え罪にならないとしても商道德、倫理上許されるものではない。業界の指導的立場にある問屋は抜き取り業者に毅然たる態度をとり受け入れを拒否すべきである。同時に周辺での抜き取り物買取問屋にも自粛要請をよびかける。

③ 自治体に要望。市の所有権を

明確にすること。市指定以外の回収業者が回収した場合には窃盗罪で告訴を辞さないこと。

まとめ

日資連古紙委員会の見解を参考にしてまとめてみて、浮かび上がったきた事は、「抜き取り行為」を場当りの断罪すればすむことではないことである。製紙メーカー、問屋、行政それぞれの個別対応と同時にまたそれぞれが連携しなければ問題の解決に至らないことが解る。例えば、行政が古紙を出す場所を各家庭の敷地内に指定し、戸別回収を行えば、抜き取り行為は防止できるがステーション回収より手間がかかる。そのコストを誰が負担するのかと言う問題が出てくる。税金や回収有料化で自治体や市民に一方的に負担させるのではなく、製紙メーカー、大量紙消費企業なりが製品にリサイクルコストを内部化することが必要である。

また、古紙問屋の連帯が余りに希薄であることが問題だ。一部の営業所が抜き取り業者の基地になつていたり、わかっているながらお互い見過ごしているのである。そして製紙メーカーに対して価格の影響力がなさすぎることである。それはメーカーが問屋の連帯の無

さに乗じて分断支配しやすいことを表わしている。古紙問屋は国内メーカーのみに頼らず、継続した輸出处体制の確立やメーカーへの出荷調整機能を整備し古紙価格への発言権を獲得することが求められている。

回収業者は効率の良い、良質の資源回収である事業所回収、集団回収などの拡大をより一層進めて行きたい。行政回収に携わっている組合などが市民と交流を活発にすることである。それはなにも紙の分別の仕方などに限らず、コスト的な面も含めて情報を提供すべきである。それはとりも直さず常に不安定な業界であることの理解を得、製紙メーカー、大量紙消費企業への要求事項が明らかになつて来るだろう。本論の最初のほうで船橋市の組合が「初めての試みであるが市民との交流会」を行つたとあるが、この勇気は褒められるべきだ。回収業者は市民と情報を共有することで連帯を強めることができる。

抜き取り行為が横行する前までは古紙価格は生業（なりわい）とするには程遠いこと、そのうえ低い段階で変動して経営が不安定なことが根本にあることを再痛感させられた。

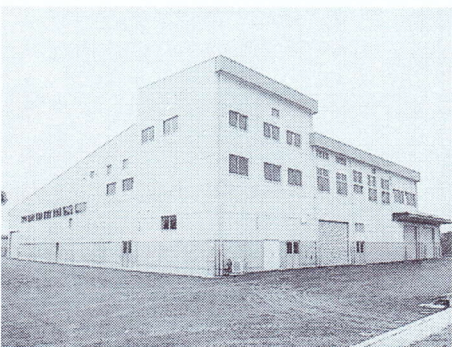
(吉浦)

鹿児島リサイクル

プラザ見学報告

去る一月三十一日、当組合では、廃プラスチックのリサイクルなどの超最新設備があると聞いて、鹿児島研修旅行を実施した。今回の研修に際し、日本資源流通株式会社鹿児島営業所の勘場所長にご紹介いただきましたことをまずもって、お礼申し上げます。

さて、鹿児島市リサイクルセンターは、鹿児島市の北部に位置し、平成一四年三月、総事業費三十八億円をかけて完成したばかりの新しいリサイクルプラザである。清掃工場及び最終処分場と隣接し、敷地面積は一一、三〇〇㎡あるという。清掃工場が最終処分場と隣



リサイクルプラザ

接しているというのは、二ツ塚処分場を目下最後の抛り所として、深刻な処分場問題を抱えているわれわれ三多摩地域の住民にしてみれば、うらやましい限りである。

この広大な敷地に缶・びん・ペットボトル選別・圧縮及びびんの保管施設と中央制御室、リサイクルに関する啓発施設を備えた本館、紙パックの選別・圧縮・保管及び缶・ペットボトルの成形品のストックヤードを備えた一号棟、廃プラスチック類の選別・圧縮・保管施設である二号棟の三棟が建っている。

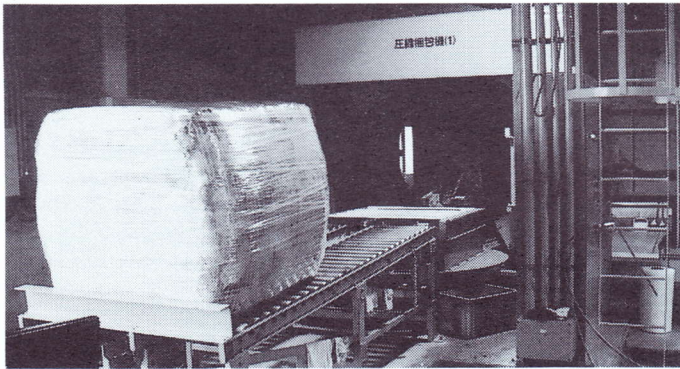
初めに見学担当の啓発指導員である、関本氏の案内で、一号棟から見学をさせていただいた。

一号棟では、びん・缶・ペットボトルの成形品のストックヤードのほか、小型のプレス機が一台設置されており、牛乳パック専用で使用しているとのこと。

鹿児島市では牛乳パックの回収を行っているため、市内のスーパーなどからの持ち込みが主となっている。運転開始から一度も出荷していないとのことだが、在庫は少なかった。正直、少しもったいない気がした。

次は二号棟であるが、こちらでは廃プラスチック類の受け入れ、

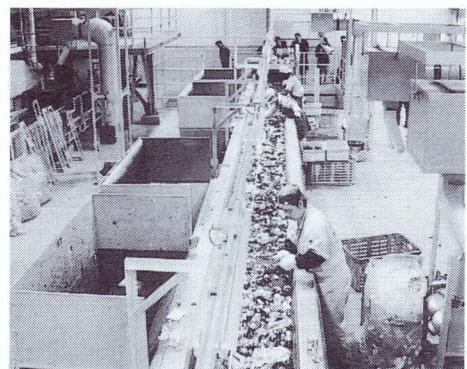
選別、圧縮、梱包を行っている。広すぎるほどの受け入れヤードには二台のショベルローダーが動き回り、ホッパーに廃プラスチック類を投入していたのだが、びんなどの転がる異物音がしたり、見た目にも不純物が多く、分別状態は他の地域と同様、お世辞にも良いとは言えなかったが、破袋機、異物除去コンベアを通り、最終的に圧縮された成形品には不純物は目立たなかった。最終的に、成形品はきれいにラッピングされ、九州地区の製鉄工場などで補助燃



廃プラスチックプレス

料として利用されるそうだ。最後の本館では、袋による混合回収されたびん・缶（アルミ缶・スチール缶）・ペットボトルの受け入れ、選別、圧縮、梱包を行っている。日頃自ら分別し、また市民の皆様にも分別をお願いしている我々にしてみれば、複雑な思い出はあったが、普段の作業現場との比較をしながら見学させていただいた。

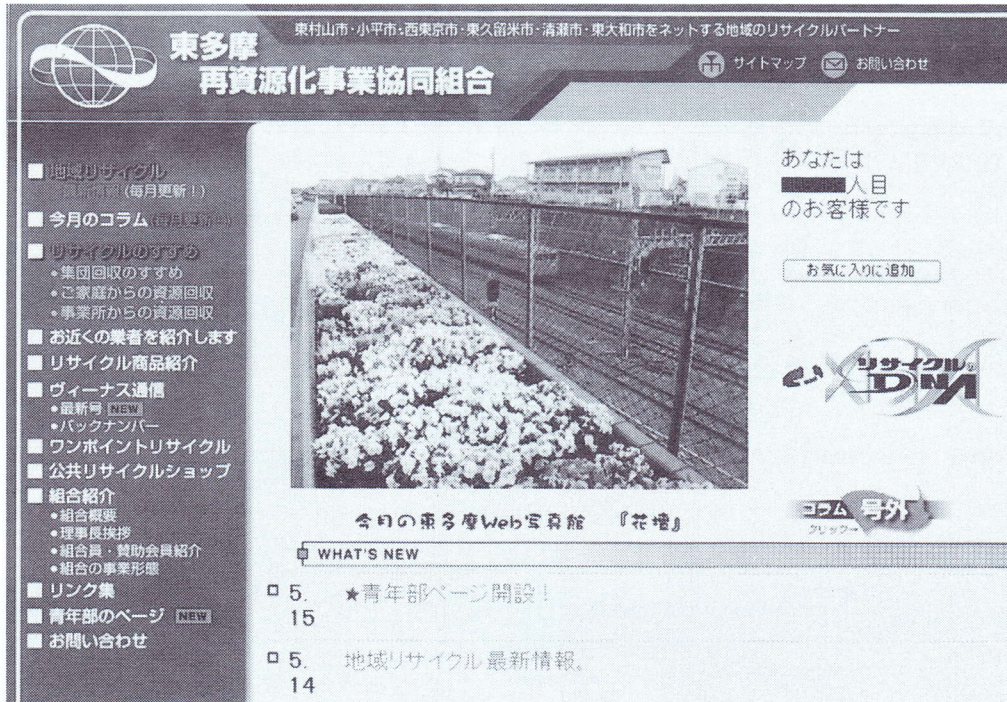
ここでの工程を簡単に説明すると、まず貯留ホッパーに貯められたびん・缶・ペットボトルは、クレーンで投入ホッパーに入れられ、供給コンベア、破袋機を経由し、まず磁選機でスチール缶が選り分けられ、そのまま圧縮・梱包される。次に、風力選別機で軽いアルミ缶・ペットボトルが選り分けられ、重いびん類が残る。アルミ缶とペットボトルはその後、アルミ選別機で分けられ、不純物除去コンベアを経由などして、それぞれ圧縮・梱包される。残ったびん類はびん類前処理コンベアで不純物等が取り除かれた後、びん振動整列装置によりきれいに並びかえられ、びん類自動色識別装置で透明・茶色・その他の色に分けられ、カレット（ガラスくず）として貯留される。



ビン選別ライン

また、これらの設備は中央制御室の最新のコンピュータシステムで運転操作・監視・管理されている。

これらの広大な施設・最新の設備には驚かされ、感心するばかりであったが、敷地の制限や隣接する住民などとの関係などから都市部では難しい点も多く、地方ならではの難い点はないかと感じずにはおれなかった。また、混合回収や、長い選別ラインを経由することにより、びん類は生きびん（ビール瓶のようにそのまま洗うなどして使えるびんのこと）としては利用が難しい点などが指摘されよう。やはり我々は、これからも分別の徹底をお願いしていかななくてはならないことを痛感した。



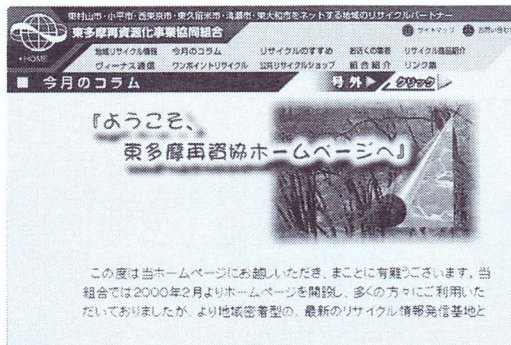
組合ホームページが

リニューアルされました

※ホームページアドレスは変更ございません。

<http://www.h-recycle.or.jp>

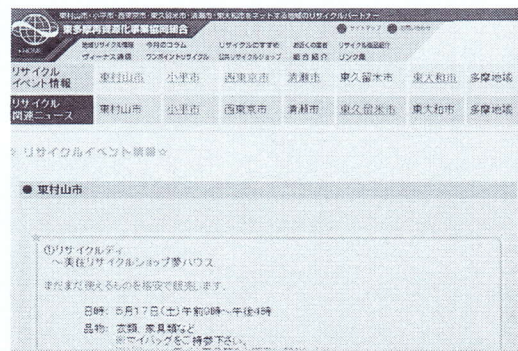
【地域リサイクル最新情報】では、リサイクルフリーマーケット・リサイクル関連のフォーラムなどのリサイクルに関するイベント情報と、各市毎のリサイクルの取り組み



今月のコラムのページ

去る三月一日に、青年部が中心となって組合ホームページをリニューアルしました。まず、最新の地域密着型の情報発信基地として、皆様にお役に立てるよう、毎月更新の今月のコラム、毎月二回更新の地域リサイクル情報のページを新設しました。【今月のコラム】では、現場や業界の生の声をソフトなタッチで読みやすく掲載し、また、時事的な問題に対応し、号外コラムの掲載なども行なっています。

次に、【リサイクルのすすめ】では、集団回収や家庭・事業所からの資源回収・産業廃棄物収集運搬などについてご案内し、【お近くの業者紹介します】では、リサイクルをお手伝いする業者が一覧表になっており、さらに、そこから各社の紹介のページにリンクしています。また、全体的に内容を見直し、充実させた他、説明の補足のために、随所で関係各所のホームページにリンクを貼っています。【リンク集】も種類ごとに整理し、リンク先も増やし、より充実させました。



地域リサイクル最新情報のページ

みなどを紹介する地域のリサイクルニュースを発信しています。

信栄製紙株式会社・川崎工場

通称コアレックス株式会社見学報告

去る二月二二日(土)、東多摩再資協・青年部主催の工場見学会に参加した。

川崎市と信栄製紙が手を組んで、「ゴミから紙を作る」新事業として設立した、新聞紙上でも話題となったコアレックス株式会社を見学することになっていたので、大変興味を持って臨む事ができた。

この製紙会社の生産品種はトイレットロールに絞られており、その原料として様々な加工紙が使用されている。

一般的に、紙の原料となる古紙は、財団法人・古紙再生促進センターによって古紙標準品質基準が定められ、禁忌品A・Bの混入率が決められ、この規格に適合したものが商品としての古紙になり、製紙会社に受け入れられているのが古紙業界の現状である。

コアレックス株式会社では、オフィス古紙・機密文書などを処理する際に、ビニール表紙、ファイル金具、バインダー金属類が付いた状態で段ボール箱に入ったままパルパーに投入する。

また、禁忌品とされるアルミやフィルム貼合紙、剥離紙、磁気印

刷切符等も同様にパルパーに投入され、原料化されている。普通の製紙メーカーでは原料化出来ないものが、コアレックスでは、当然逆有償ではあるが、出来るこの違いは原料化の工程にあった。

選別せずに投入された「紙ごみ」は、普通の製紙メーカーの五倍の水を使い、原料を長く水に漬けることによって異物から分離し、更に遠心分離機によりプラスチック、金属類を取り除き、脱墨、洗浄、減菌処理、漂白処理をしてパルプ化されている。

工場設備の大部分は、この水処理関係に資金が投下された模様で、規模からみて工場内の太い配管や貯水塔、多層のクラリファイヤー設備が印象的であった。

日量二〇〇トン进行处理しているとのことだったが、紙にならなかつた部分の異物は、一日で約九〇トン排出される。プラスチック類、ペーパーラジックは焼却され、焼却した際の熱エネルギーは蒸気に転換して工場内で再利用し、焼却灰は高温で処理することにより、セメントの原料になり、焼成タイルとして工場内の床に使われている。

た。使用量の多い水についても、「中水」を使う工夫がなされており、循環使用の処理も、浄化放流と水力発電に利用するなど、リサイクルを考慮した処理がほどこされている。なお、処理コストの明細は、説明してもらえなかった。

●まとめ

「紙ごみ」の処理設備として工場の機能は大変すばらしいものである。燃やすしかないと思われていた紙ベースの加工紙からトイレットロールを再生することが出来るし、環境に配慮した後処理も行っている。

しかしながら、現在行政が行っている再資源物としての古紙は、市民や企業、団体に分別して出す事を義務付けており、これをベースに古紙のリサイクルが成り立っている。「分別されてこそ古紙」であり、廃棄物を受け入れ、処理費用を排出者が負担するコアレックス株式会社の行き方は、現在の古紙システムとは一線を画するものである。

川崎市がこうした業態に乗って「紙ごみ」の処理に参画したが、他の自治体からも市内のミックス古紙が運びこまれており、市民に一方で「分別」を要求していることとの大きな矛盾を感じずにはおれなかった。

(長沢常憲)

株中田・世田谷事業所

(中田エコロジー) 見学記

去る二月二二日(土)、午後二時より、株中田・世田谷事業所(中田エコロジー)を見学した。

都心の住宅地に建てたところ、古紙処理問屋というよりはどこのホテルのような建物だったことにいきなり驚いた。屋根は、セダムユニット工法を利用して緑化しており、これで地球温暖化の抑制・屋根の太陽熱などからの保護・冷暖房費の一〇〜二〇%削減などに努めることが出来るという。また、壁面には近隣住民に配慮するため、住宅用のレンガ色のコンクリートを使用してあったり、建物の周りの道路沿いに六〜八メートルの高木や低木を植えて緑化してあったり、古紙選別処理機や事業所内で使用するフォークリフトなどの車両への騒音対策などをほどこしてあったりと環境に配慮した古紙リサイクル施設になっていた。

事業所内では、古紙選別処理機が新聞・雑誌専用と段ボール・事業所専用に分かれており、事業所に古紙を運び込んできた車両は、品目毎に専用の古紙選別処理機の供給ピットに荷物を降ろして行き、場内を一周すると空車になる。

●まとめ
 世田谷事業所(中田エコロジー)は、(株)中田が世田谷区リサイクル協同組合の組合員として世田谷区の行政・区民と協力・連携しながらリサイクルシステムの構築に取り組んだ実績・ノウハウを活かし、地域全体の信頼を得て、建設することが出来たものであるという。そして、今後も区行政・区民との協調のもとで、この施設を発展させていくことが地元地域の発展に繋がると会社側では説明していた。

という古紙受入れシステムを採用し、従業員二五名(若手スタッフ多数)で迅速に対応に当たっていた。選別作業においても、雑誌の選別をする時は雑誌専用の供給ピットやコンベアーに数名の作業員が集まってビニール紐を取り除き、禁忌品の選別作業をするというような作業形態を採用していた。



(株)中田エコロジー

青年部のホームページが出来ました

組合ホームページのリニューアルから遅れること二カ月半、ようやく青年部のホームページ『リサイクルのDNA』が完成しました。

出来ました



青年部のホームページ

アドレス : <http://www.h-recycle.or.jp/dna/>

青年部の組織や活動の紹介のほか、組合ホームページとは違った角度で、楽しくリサイクルに触れることが出来るような内容になっております。組合ホームページからもアクセス可能です。組合ホームページともども、宜しくお願ひします。

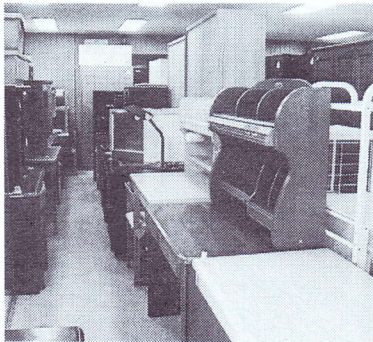
(青年部 紺野)

組合パンフレットをリニューアルしました。

この度当組合では、組合設立10周年を機にパンフレットをリニューアルしました。新パンフレットでは、現在当組合が行っている事業や広報活動を分かり易く紹介しております。また、新年度より変更になった当組合の新組織図も掲載しておりますので、是非、組合機関紙「ヴィーナス通信」と共に大いにご活用頂きますよう宜しくお願い致します。尚、購読を希望される方は下記の申込先にご連絡下さい。直ちに送付させていただきます。(購読料・郵送料は無料です。)

〔購読申込先〕 東多摩再資源化事業協同組合 TEL&FAX : 042-395-9788

Eメール : ri3196@oak.ocn.ne.jp



清瀬リサイクル事業

・展示販売所

清瀬市のリサイクル事業・展示販売所
見学記

四月二四日、清瀬市松山にあるリサイクル事業・展示販売所へ見学に行ってきました。展示販売所は各家庭で不用となった家具類の中から再生可能なものを回収して再生し、それを展示販売している社団法人清瀬シルバー人材センターの施設です。

人材センターの入り口を入ると、事務所の右側奥に二階建ての展示販売所があり、そこで再生された家具類が、一階には一人一人が通れる通路を挟んでダンスや食器棚、本棚、机がびっしりと並べられ、二階はベッド、ソファ、テーブル、三面鏡などが展示されています。入り口付近では、丁度回収された家具を修理している所で、その家具に合った部品がなかなか

ないという事でした。

価格はごみ減量化、リサイクルを目的としたものなので一番高い家具（ダンスや二段ベッド）でも二万円以下、他の家具も低価格で販売されていました。

職員の方の一番の苦労は、家具の引き取り、納入で、大きな家具の出し入れは住宅の壁や物、家具にも傷を付けてはいけないということでも神経も使い、怪我などあり、体力的にも、とてもきついそうです。また、あまり古い家具は引き取れないということでした。

販売の時は、お客様の対応などもあり、人間的にも不足しているということでした。定期的に売れる家具もあるそうですが、一ヶ月ぐらいで展示物が回転するように心掛けているということでした。

最近、マンションなどは収納スペースがあつて、そういう所に引っ越す際は、家具類がよく出されるそうで、そう云った事もあり、まだまだ充分に使える家具が揃っていて、市民の皆さんにどんどん利用してもらいたいということでした。

販売日は、金曜日を除く毎日午前九時～午後四時までだそうです。また、中清戸にも販売所があるそうです。

(社)清瀬シルバー人材センター

清瀬松山三―一三―一六

TEL0424―94―0903

リサイクル商品販売所

清瀬市中清戸三―四三七

TEL0424―93―8811

(小畑和夫)

積荷落下飛散防止ネット

を全回収車両に配布

当組合では、古布・古紙の飛散や落下を防止する為に統一した色と大きさのネットを全組合員に、配布した。古紙・古布を回収する場合(特に段ボール・古布)は、積んだ時に不安定な状態になりがちで、落下に注意が必要である。回収中は、回収車のスピードもゆっくりだが、ヤードに資源物を下ろしに行く時は、通常の法定速度で走る為、ロープがけた上からシートやネットで資源物を被うことを義務付けた。



積荷をネットで被った回収車

トイレットペーパー 「フューメラン」

(65m巻き・100個入り)

- 地元の市役所・公共施設・事業所などから収集されたミックス雑古紙 100%使用!
- 塩素系、酸素系、苛性ソーダなど化学薬品を使わない無漂白品!
- 東村山市・西東京市等の小中学校、公共施設、保育園などで使用され好評を得ています!

(価格) 1ケース 2,600円、10ケース以上1ケース 2,470円

(いずれも消費税・配達料込)

ご注文は当組合までお願いします。TEL&FAX : 042-395-9788

Eメール : ri3196@oak.ocn.ne.jp

私の履歴書

株式会社 三栄サービス

社長 紺野武郎

朝日連峰の山懐で中央に最上川が流れ、「おしんの里」のすぐ上流に、わが故郷の山形県白鷹町がある。太平洋戦争勃発の昭和一六年、五人兄弟の末っ子として生まれた。父は物心付いた頃にはすでに県会議員をしていて、亡くなるまで二〇年ほど議員を続けていた。

小学校入学は戦後の極貧の時代でランドセルを背負って通う子供は少なく、風呂敷包みの子も多かった。ノートや鉛筆代わりに、ミニ黒板のような石盤や石墨を使っての一年生だった。

高校までこの町で過ごし、上京しての学生生活は学業四・山登り三・麻雀三と、バランス感覚を養い、我が綱渡り人生の基になった。昭和三九年、水や大気などの環境対応企業として注目を浴びていた栗田工業(株)に入社した。

当時我国は、高度成長初期の頃で各企業の裏側で色々な環境トラブルが発生していた。公害と云う言葉もこの頃から使われた。技術サービス課に配属になり、火力・原子力発電所・化学プラントなどの水処理や化学洗浄の薬品仕

様を決める実験が主な仕事だった。

昭和四三年、工務担当の津田(現当社専務)と営業担当の五木田(現当社茨城営業所長)と三人で脱サラ(と言う言葉もなかったが)を決心した。『これからはリサイクルの時代がくる』との、全く不確かな確信からの行動だった。

父親が他界し、私自身系の切れた風になっていた時でもあった。我が大志を聞いて、兄弟親戚友人とも皆呆れ果てていたようだ。

さて爽やかに事業決行をと思ったが、肝心の資金は三人ともほとんど無一文に近かった。遠大な事業企画書を作り、とりあえず近くの銀行の融資係りに飛び込んでみた。担保物件は三人のナマ首と書いた。説得二時間、支店長までお出ましになり、ついに満額四十万円を借入れて凱旋した。学卒初任給が二万円弱の頃だったから大金だ。

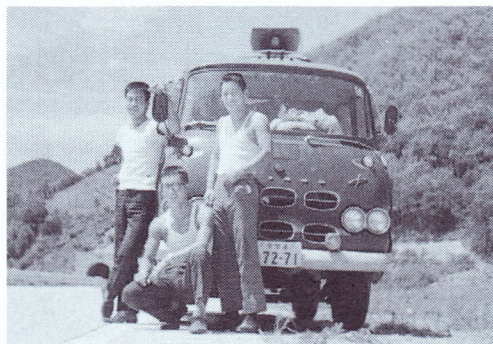
(一円の預金も無い若造に対して、支店長は、密かに本籍地に連絡して実家の兄に保証人の約束をもらっていたらしい。)

田無市にある叔父の土地を借り、小さなプレハブと中古トラックを購入して、三人組の資源回収業『三栄サービス』は、マイナス四十万円からのスタートとなった。

その後借金も無事返済し、東村山

市の現在の地に営業所を移して、会社も法人化して再出発した。

純子との結婚はそんな独立劇が一段落した四五年十一月だった。身内だけのさやかな結婚式に、何故か竹下登と名乗る小柄な衆議院議員が祝いに駆けつけて下さった。亡父が面識あったようだ。なお、小学校の校長先生がかみさんの父親で、中学の担任が長兄、さらに三兄は高校の友人と、五十嵐家には不思議とご縁があった。



開業当時の三人組
(右=津田、中=五木田)と1号車

当時回収業界は超閉鎖的で、よそ者が組合に加入するのは至難の業だったが、幸運にも吉岡さんと言う副理事長さんの店に弟子入りをしたため、無事組合に入れて頂き、支部の皆さんから快く業界の一角を教えていただいた。

世間からの偏見にも驚愕した。クズ屋さんが一般的な職名だった。

そこで業界存在の重要性を朝日新聞「声」の欄に投稿してみた。それが掲載され、NHKテレビが取材に来た。朝の「カメラリポート」と言う番組で全国に放映された。以来、業界のPRとリサイクルの促進を兼ねて、恥を忍んでメディアの取材や投稿に協力した。

同じ頃、美濃部東京都知事の「ごみ戦争宣言」が布告され、各自治体のごみ減量・資源回収運動が急速に普及していった。

昭和五八年東京都資源回収事業協同組合(東資協)の理事になった。平成五年、東多摩再資源化事業協同組合設立、初代理事長を拝命し、平成一〇年には東資協第一四代理事長を拝命した。創立五〇年を超える資源回収業界の中心的な組合であり、この間何千人もの業者が東資協で育ち活躍された。そんななかでも歴代理事長は、老舗中の老舗の親方衆が選ばれてきた。

脱サラ系の発展途上業者に、大役を任せてくれた地元支部員そして社員や家族に、心から感謝の意を表したい。これからも理想的なリサイクル社会作りに奉仕をして行ければと願っている。

行事・行動

【二月】

- 四日：総務委員会
- 五日：日資連古紙委員会
- 七日：日野市下田商会见学

- 二二日：従業員安全会議
- ボーリング大会
- 二八日：十周年行事実行委員会
- 二九日：多摩R団連シンポ打合せ

- 一九日：青年部会議
- 二〇日：RC責任者会議
- 二二日：多摩R団連幹事会
- 二三日：東資協総会
- 二九日：古紙センター業務委員会
- 三〇日：青年部総会

編集後記

今号は、東多摩組合員も大変迷惑している抜き取り業者の問題を特集した。読者の皆様に実態を理解して頂ければ幸いです。

四月にはいつて国内の新聞古紙がだいぶついてきた。国内製紙メーカーが昨年末から新聞古紙を十年ぶりに価格復元をして集荷に力を入れ、目標在庫を達成したため、買う気配が弱まった。加えて、一〜三月までの新聞古紙の輸出が少ないせいだろう。

【四月】

- 一日：定例理事会
- 二日：東村山市廃棄物減量審
- 四日：長沼商事視察
- 七日：十周年行事実行委員会

- 三日：東村山市北山小学校で古紙分別説明会
- 七日：日資連古紙委員会

リサイクル川柳

◎排ガスを

ペットにつめて
紋どころ

◎我が愛車

排ガス規制で
廃車され

◎新車買う

余裕もないのに
廃車され

◎リユースで

長く使えと
基本法

◎排ガスを

減らしたいなら
ごみ減らせ

(改修業者)

古紙価格も下がり始めた。今までのような0円に限りなく近い数字にはならないと思うが、海外輸出先として最大の中国が、イラク戦争前に在庫を積み増したせいかSARSの影響のせいか定かではないが、買値をジリジリ下げだした事が気になる。

しかし、国内古紙は回収量の割は必ず余剰してしまうのだから価格の高低に関わらず海外への定期的な輸出を真剣に考えなければ国内古紙の予想以上の暴落を招く事も考えられる。

古紙回収量は年々増加していくため、バランスのとれた国内需給になるように組合も努力していきたい。

(吉浦高志)

【三月】

- 一日：関資連理事会（伊香保）
- 四日：十周年行事実行委員会
- 七日：全日本輸出梱包連で講演
- 八日：東村山市シンポジウム

- 二二日：古紙センター業務委員会
- 二四日：古紙センター協議会
- 二八日：青年部会

- 二二日：RC責任者会議
- 二四日：古紙センター協議会
- 二八日：青年部会

【五月】

- 一日：定例理事会
- 二日：段ボールR協議会
- 三日：古紙センター理事会
- 五日：日資連編集会議
- 七日：RC責任者会議
- 八日：幹部・青年部座談会
- 二〇日：多摩R団連幹事会

- 二二日：中小企業中央会役員会
- 二四日：古紙センター協議会
- 二八日：青年部会

◎排ガスを

ペットにつめて
紋どころ

◎我が愛車

排ガス規制で
廃車され

◎新車買う

余裕もないのに
廃車され

◎リユースで

長く使えと
基本法

◎排ガスを

減らしたいなら
ごみ減らせ

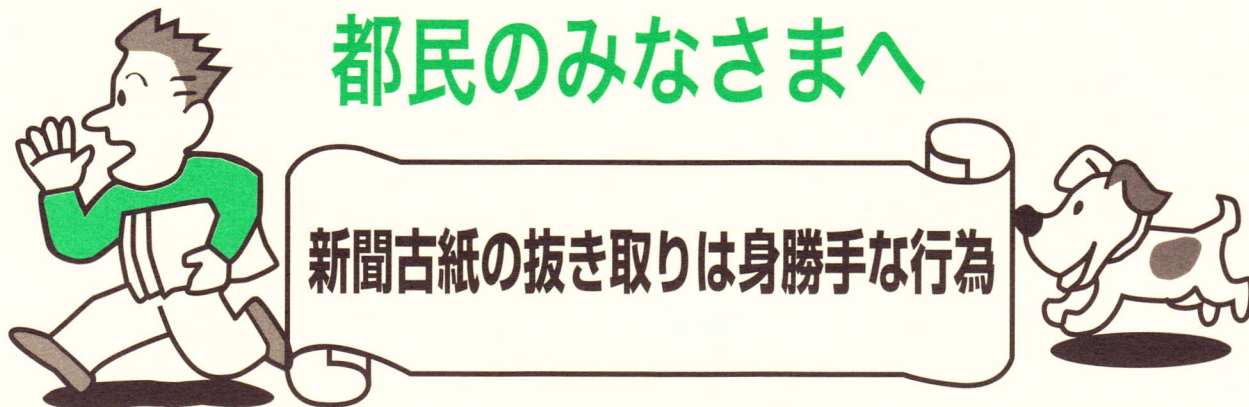
(改修業者)

古紙価格も下がり始めた。今までのような0円に限りなく近い数字にはならないと思うが、海外輸出先として最大の中国が、イラク戦争前に在庫を積み増したせいかSARSの影響のせいか定かではないが、買値をジリジリ下げだした事が気になる。

しかし、国内古紙は回収量の割は必ず余剰してしまうのだから価格の高低に関わらず海外への定期的な輸出を真剣に考えなければ国内古紙の予想以上の暴落を招く事も考えられる。

古紙回収量は年々増加していくため、バランスのとれた国内需給になるように組合も努力していきたい。

(吉浦高志)



都民のみなさまへ

新聞古紙の抜き取りは身勝手な行為

東京都資源回収事業協同組合
理事長 紺野武郎

いつも集団回収にご協力いただきありがとうございます。

役所と抜き取り行為者が、古紙を取り合っているニュースが頻繁に流れていますが、彼らは身勝手なごく一部の組織的な人達です。

大多数の民間回収業者は、地元自治体と協力し、行政回収や集団回収をしています。長くチリ紙交換をしている人たちも会社や商店などのお得意さんと契約し、事業系古紙の回収や市民団体と協力して集団回収を進めるなど地道な努力をし続けています。早朝に古紙を横取りする者は、古紙価格が上がってきた最近に始めたグループが多く、他地域から越境してきて、場所や時間を問わずに欲しいものだけを持っていくため、地元回収業者も大変迷惑しています。

古紙価格が上がったといっても、雑誌や段ボール、古布等はまだ安く、すべての資源を一定地域から一定時間内に回収するには、手間やコストもかかり、まだ行政の支援が必要です。今、資源循環社会づくりは地球規模で取り組まれ、特に先進国では、その徹底が義務づけられています。欲しいものだけを、しかも商売として成り立つ期間だけ集めて、あとは**ゴミにするようなリサイクルは絶対に許されません。**

今後も、私たち組合としては、市民と協力した集団回収事業を拡大し、**心の通い合ったリサイクル活動を推進しよう**と呼びかけています。同時に清掃行政の仕事になるほどの紙の無駄づかいをする生活形態に猛省を訴えています。今後共都民の皆様のご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

